平成２６年度 第２回 東金市地域公共交通会議　議事録

１．日　　時　平成２６年８月２６日（火）　　１３時５７分～１５時１０分

２．開催場所　東金市役所３階　第１委員会室

３．出 席 者

【委員】　斉藤委員、川嶋委員、石﨑委員、中村委員、伊藤委員（代理　轟氏）、
田中委員、笹尾委員、仲田委員、三須委員、吉井委員、座古委員、小泉委員、
岡本委員、矢野委員、越川委員、尾崎委員、野口委員（代理 宮内氏）、
飯高委員（代理　椎名氏）、関口委員、川口委員、本吉委員（代理　加養氏）、
齊藤委員、椎名委員、錦見委員

（欠席）　田邉委員、林委員、大木委員

【事務局】　板倉企画課長、神山企画課副課長、矢野統計調査係長、櫻井副主査

【傍聴人】　２名

４．会議次第

１　開　会　　板倉課長

・会議成立の報告

委員の過半数の出席（２４名出席）であり、東金市地域公共交通会議設置要綱第７条第３項の規定により、会議が成立していることの報告

２　斉藤会長あいさつ

３　新任委員紹介

会議の目的等の確認　　次第により確認

（１）デマンド型乗合タクシーの実績（４月～７月）について（報告）

（２）循環バス・路線バス（東千葉ＭＣアクセス）の利用状況について（報告）

（３）路線バス八街線の運行経路について（報告）

（４）デマンド型乗合タクシーの運行車両の更新について（報告）
（地域公共交通バリア解消促進事業申請）

（５）今後の地域公共交通のあり方について（審議）

５．議　　事

（議長　斉藤会長）

議事案件は(1)・(5) 神山副課長、(2)・(3) 矢野係長、(4) 櫻井副主査より説明・提案

(1) デマンド型乗合タクシーの実績報告（４月～７月）【報告】　　資料１

(2) 循環バス・路線バス（東千葉ＭＣアクセス）の利用状況【報告】　資料２－１

（①利用者数の推移　②東千葉メディカルセンター利用状況）　資料２－２

(3) 路線バス八街線の運行経路について【報告】　資料３

(4) デマンド型乗合タクシーの運行車両の更新について【報告】　資料４

（地域公共交通バリア解消促進事業申請）

(5) 今後の地域公共交通のあり方について【審議】　資料５

(6) その他

６．閉　　会　板倉課長

（１）デマンド型乗合タクシーの実績報告（４月～７月）【報告】（資料１）

（事務局）
５月は大型連休があり、病院・診療所の休診が多かったため、４月と比較すると利用者の減少が見られた。
前年度の会議において本年度４月から６月までの第１四半期の利用者推計を 50.00 人、７月から９月までの第２四半期の利用者推計を 63.00 人としたが、それには及ばなかった。
本年１月に身障者手帳等を所持された方の利用運賃を無料から１００円引きに、要介護認定の方の利用運賃を無料から通常運賃に変更した結果、それまで６０％を占めていたが、３０％以下となり、推計どおりとなった。
曜日別の利用者数に関しては月ごとにばらつきはあるものの、金曜日に利用が集中している。時間帯別で見ると「降車場所」を見ても分かるとおり病院・診療所が９３６人と多く、診療開始時間帯である午前８時台、９時台に利用が集中し、「降車場所」ではサンピア前が多く、午後３時台、４時台に診療後の買物帰りなどで利用が集中している。

（議長）
この件に関して質問等はあるか。
【質問等なし】

（２）循環バス・路線バス（東千葉ＭＣへのアクセス）の利用状況【報告】
① 利用者数の推移（資料２－１）

（事務局）
本年４月より東金市乗合タクシーの市内全域運行が開始されたことを受け、それによる市内循環バス福岡路線と豊成路線の利用者に影響があったのか、月別の利用者数を昨年と本年で比較した。福岡路線を比較すると昨年よりも２割程度減少、豊成路線については昨年よりも増加している。福岡路線の減少は、資料１の東金市乗合タクシー利用実績の利用者数を見ると、すべての方がバスからタクシーに乗換えたわけではないと思われる。

（２）循環バス・路線バス（東千葉ＭＣへのアクセス）の利用状況【報告】
② 東千葉メディカルセンター利用状況（資料２－２）

（事務局）
東金駅周辺から東千葉メディカルセンターまでの運行については「ちばフラワーバス株式会社」と「九十九里鉄道株式会社」の２社で運行されている。
平日１日あたり、ちばフラワーバスによるＪＲ成東駅から中野操車場までの９便と九十九里鉄道による東金駅駅舎側の西口から東千葉メディカルセンターへのシャトル便５本、片貝駅からＪＲ千葉駅までの九十九里ライナー４便が運行されている。
また、東千葉メディカルセンターから東金駅周辺への運行についてはちばフラワーバスの９便、九十九里鉄道のシャトル便５便と九十九里ライナー５便が運行されている。運行前の見込みではちばフラワーバスが１日あたり若干名、九十九里鉄道のシャトル便が５０人、九十九里ライナーが上り１２人、下り１５人だった、実績ではちばフラワーバスでは１日あたり４～６人、九十九里鉄道シャトル便は上り１人、下り０．６人、九十九里ライナーでは上り１．８６人、下り１．７１人となっている。

（議長）
見込みと実績との大きな乖離について当局はどのように見ているのか。

（事務局）
東千葉メディカルセンターの外来患者自体が少ないこと。また、自家用車での通院が主であることが大きな原因であると思われる。

（議長）
現状のままであれば、減便もありうるのではないか。

（事務局）
九十九里鉄道株式会社田中社長とこのことについてお話をしたが、減便も考えざるを得ないとの見解であった。

（議長）
東千葉メディカルセンターの見解はどうか。

（委員）
事務局と同じ見解である。

（議長）
再度、この現状を事務局はどのように見ているか。今後、どのようにしていくか。

（事務局）
現段階では、運行ダイヤに問題があるのかなど、事業者と具体的な協議はしていないが、今後、再検討をする必要があると思われる。

（議長）
事業者との再検討をお願いする。

（３）路線バス 八街線の運行経路について【報告】（資料３）

（事務局）
八街線の運行経路について「東金市・東金市近郊路線バス図」にて解説した。
昭和５５年８月に旧国鉄バス布田線が廃止されたことに伴い、九十九里鉄道株式会社と代替運行に関する覚書を交わし、東金市から九十九里鉄道株式会社へ平成１３年より補助金の交付がはじまった。この補助金は現在、年間約５００万円程度となっているが、運行経路の変更や短縮などにより、補助金削減の可能性について検討をしている。その可能性の一つが運行経路の短縮である。現在、八街市がコミュニティバスを運営しており、八街市と東金市の行政境付近にて、このコミュニティバスと八街線との乗り継ぎが可能かどうかについて八街市の担当課である企画課と協議を行った。八街市からは八街線との乗り継ぎのためにコミュニティバスの運行時刻を変更することはできないが、乗車定員が２６人程度のコミュニティバスにおいて、乗車人員に余裕があることから、八街線の乗客が乗り継いで乗車することは可能との回答を得た。

今後は九十九里鉄道株式会社とともに、メリットとデメリットを考慮しながら、具体的な乗り継ぎのバス停、車両の回転場所、待機場所、時刻表の調整等を検討したいと考えている。

（議長）
源地区との協議はしているのか。

（事務局）
現段階では、資料やデータの収集をしている状況であり、今後、関係地区と協議を進めたい。

（委員）
若干名ではあるが、利用者はいる。

（議長）
今後のスケジュールは決まっているか。

（事務局）
バス車両の大きさなど解決しなければならない事項が多くある。今後、これらの解決を進めたい。
具体的なスケジュールは、まだ決まっていない。

（委員）
区長会に今回の事案を報告する。

（４）デマンド型乗合タクシーの運行車両の更新について
（地域公共交通バリア解消促進事業申請）【報告】（資料４）

（事務局）
事業内容としては、ユニバーサルデザインタクシーの導入である。ユニバーサルデザインタクシーとは、健康な方はもちろんのこと、高齢者、車いす利用者、ベビーカー利用の親子連れの方など、誰もが利用しやすいタクシーである（スペースにゆとり・段差の少ない設計・手すりやスロープの設置）。
本件については、７月のはじめに書面において検討をお願いした。その背景としては、東金市総合交通計画に導入検討に関する記載があること、また国からの補助金の活用に際して協議をさせていただいたところである。
本車両については、一般タクシーのほか、デマンド型乗合タクシーとしての活用も予定している。市民生活の基礎となる公共交通について、誰もが安心して快適に利用できる環境を整備するとともに、セダン型タクシーの利用が難しかった車いす利用者、シルバーカー利用者やベビーカー利用者の方などの利用を図ることができるようになる。
国からの補助金の概要については、実施事業者は東金タクシー有限会社である。車両購入予定金額は３２２万９千円、そのうち６０万円を上限として国からの補助金をいただくことができる。差引の金額については実施事業者の負担となる。
協議内容としては、２項目の貴重な意見を頂戴した。いずれも利用者の方に十分周知をして、かつ、よく意見をお伺いすべきとの内容であった。現在も説明会にお伺いする機会を頂戴しているため、そのような場での報告、また、アンケート調査などを活用したいと考えている。

また、デマンド型乗合タクシーの利用促進ＰＲも兼ねて、乗降場の標識（バス停留所のようなもの）の設置を準備している。９月中に、市役所前、サンピア前、南上宿バス停附近、押堀インターバス停附近への設置を予定しており、そこへの掲示物の貼付などの活用も図っていく。

（議長）
事務局として、需要予測はどうみているか。

（事務局）
セダン型タクシーよりは乗降の幅が広がるため、利用者は増えていくと考えている。

（議長）
事業としては良いことである。導入の価値を高めるため、十分な周知をお願いしたい。

（５）今後の地域公共交通のあり方について【審議】（資料５）

（事務局）
地域公共交通の充実とは、買物、通院など市民の日常生活に、利用しやすい移動手段を提供することであり、その結果として「暮らしやすい」、「人が集まりやすい」、「高齢者や障がい者も外出しやすい」まちづくりにつながるものである。
言いかえれば、「にぎわいのある」、「環境にやさしい」、そして「人と人とのふれあいのある」まちづくりの「要」となるものが地域公共交通であり、少子高齢化による人口減少が進む中で、市内外から人を呼び込める魅力あるまちづくりのため、望まれる地域公共交通を整備・改善していく必要がある。よって、東金市の置かれている現状を踏まえ、今後の地域公共交通のあり方について検討していくものである。
東金市の人口推移について、本年と１０年前の地区別人口動態を掲載した。
市街地である東金地区、土地区画整理が行われた大和地区の人口は増加しているものの、その他の地区人口は減少している。社会動態においては県北東部で唯一、東金市の転入が３桁増となっており、減少傾向にはあるものの、他市ほど急激ではない。高齢化率を１０年前と比較すると７ポイントの上昇が見られる。これらの数字からも高齢化と過疎化に適応した地域公共交通のあり方を検討する必要が明確である。
具体的には、ご自身で乗降可能な高齢者は可能な限り「デマンド型乗合タクシー」を利用していただき、通院などに介護が必要な方は「ケアタクシー」や「福祉有償運送」を利用いただくよう、利用者のニーズに見合った交通手段の確保が必要と思われる。
また、少子化対策として子育て支援、さらには定住人口の確保にも繋がることからスクールバスなどの運行についても検討が必要である。
「ＪＲ」、「路線バス」、「タクシー」など民間交通事業者が担っている運行エリアの補完として「市循環バス」や「デマンド型乗合タクシー」を運行しているが、今後、民間公共交通を最大限活用するためには、接続や乗り継ぎを重視した交通形態の検討が不可欠である。

（委員）
関連して、循環バスアンケートの進捗状況を伺いたい。十分な件数が収集できているのか。

（事務局）
現在、福岡地区・豊成地区の両地区において収集中である。次回の交通会議において、結果を報告する。

（委員）
つい先日、公平・豊成・田間地区の連名において、公平幼稚園通園バスの継続運行に関する要望書を提出させていただいた。担当部署と連携していただけるとありがたい。
（議長）
各部長も出席しており、部署をまたいで横断的に検討していただきたい。

（６）その他

（委員）
東金市内の公共交通機関について、それぞれの役割分担がわかりにくいと思われる。そもそも循環バスやデマンド型乗合タクシーの役割は何か。使い勝手がよくなるように、総合的に検討していただきたい。

（事務局）
交通不便地域の解消を目的としてデマンド型乗合タクシーを導入した。公共交通の総合的に整理していきたいと考えているので、いろいろと意見を頂戴したい。